

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 ヨハネの黙示録 21:5	讃 美 歌 234A むかし主イエスの
讃 美 歌 53 さかえあるいこいの日よ	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 マタイによる福音書 6:33~34	主の祈り 564
コリントの信徒への手紙二 4:8~9	頌 栄 540 みめぐみあふるる
讃 美 歌 90 ここのかみの みくになれば	祝 禱
説 教『先ず神の国と義を求めなさい』	後 奏
田口 重彦 牧師	

意表をついた含蓄のある山本先生の説教題と比べて、今日の説教題は何か堅苦しく取っ付きにくいと思われませんか。教会生活の長い方でも日常生活のなかで、そうそう意識してこの言葉を考える事は少ないのではないかと思います。

私の古い友人でまったくキリスト教と関係の無かった友人が、或る時、仕事の上で悩みを抱え、何か良い知恵が与えられたら、と生まれて初めて教会に出席した時、礼拝説教の題がこれでした。彼は全く何のこともやらさっぱり分からず、二度と教会に行こうとは思わなかったそうです。ただ彼はこの説教題だけは不思議に記憶していたようです。それから数年後、社会的に、家族的に本当に行き詰まった時、この言葉が蘇って来て、それに即した行動を取ることで突破口を見出し、後に受洗してキリスト教の信徒になります。今日は彼の心の中でこの言葉を中心に何が起こったのかを考えたいと思います。

三人兄弟と父親とで石鹼会社を経営していた彼らの上に、電気洗濯機の普及と共に粉末洗剤が使用され始めると石鹼は売れなくなり、やがて会社は倒産。ショックで父親が亡くなり、借金の返済と財産の分与の事で揉めにもめて、兄弟関係は憎悪の応酬で最悪になってしまいました。その時、末っ子だった私の友人がふと「まず神の国を求めなさい」という言葉を思い出し、財産分与を放棄するから兄二人で分けてくれ、もう争わないで以前のように兄弟力を合わせてこの難局を乗り切って行きたいと発言します。それがきっかけとなり、行き詰まった現実が壊され、希望ある新しい現実が展開していきます。

私達が安全と幸福はここにあると考えている現実主義は自分さえ良ければ、自分が第一でなければ、自分が儲からなければと言う欲得にまみれたものです。当然、他者と対立し他者を排除し、対立と闘争に繋がって後戻りのできない壁にぶつかり行き詰まってしまいます。それを打ち砕いたのが、神の国を求めなさいと言う聖書の言葉である事を私の友人は証ししてくれました。

神の国とは原語でバシレイアと言い、それは神の意志の支配するところを意味しています。この世の何処かに地域として、或いは建築物として存在しているものではなく、他者を愛し思いやり、共に助け合って生きていく行為の中にあると言う事です。そしてこの神の国を作り出す能力は特別な人に与えられているのではなく、全ての人に平等に与えられています。男女の別なく年齢にも関係なく病弱者にも関係なく全ての人に、そしてそれを行う場所も何か特定の場所ではなく、日常生活の真只中に用意されているのです。人とふれあう場所すべてが、神が供えられた働きの場なのです。少々犠牲をはらっても少々損をしても、それを越えて、愛と感謝と思いやりの心で接する時がそれです。神が供えて下さった現実には希望があり恵みが有ります。

「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰らず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない(Ⅱコリント 4:8~9)」。

聖書にはこのような言葉がたくさんあります。初めは取っ付きにくい遠い所での言葉のようですが、すべてが日常生活の真只中で働く生きた言葉です。「愛あるところに神あり」

本日の礼拝は、田口重彦牧師に説教していただきます。田口先生は1934年、平壤(ピョンヤン)生まれ、同志社大学神学部で学ばれ広島府中教会で伝道師、その後は牧師として岩国教会・下関西教会・岩国東教会・佐野教会・甘楽教会で奉職されました。下関時代には梅光女学院の聖書教師を兼任、また各教会の付属幼稚園の園長を兼務。登山愛好家でもあり、2000年3月に隠退して高根町に移住。1/28(水)1:00~3:00 教会カフェ(手仕事をするマリア・マルタの会)、次主日2/1の礼拝後に役員会、カレーの日です。本日、山本牧師は甲府中央教会で説教。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。